

# 農業委員会だより

## ○会長挨拶○

農家の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より農業委員会の運営、活動に深いご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、日々の生活に欠かせない「食」。その生産基盤である農地は、正に「食」の根幹をなしています。昨年の米価の下落は、稲作農家にとって深刻な問題となりました。農家の皆様も様々な試みをされていると思いますが、現在の生産販売環境はかなり厳しいものがあります。

そのような中、農地の新たな貸借の仕組みとして「農地中間管理機構」が発足しました。

この機構は、農地の貸し手「所有者」と受け手「耕作者」の間に立ち、農地の集約・集積化や耕作放棄地の解消、農業経営規模拡大等の業務を行います。

農業政策をはじめ、農業を取り巻く状況は不透明ではありますが、委員一同、農業者の代表として、農業経営発展のため努力してまいりますので、今後ともよろしく願いたします。

白子町農業委員会 会長 田邊義行

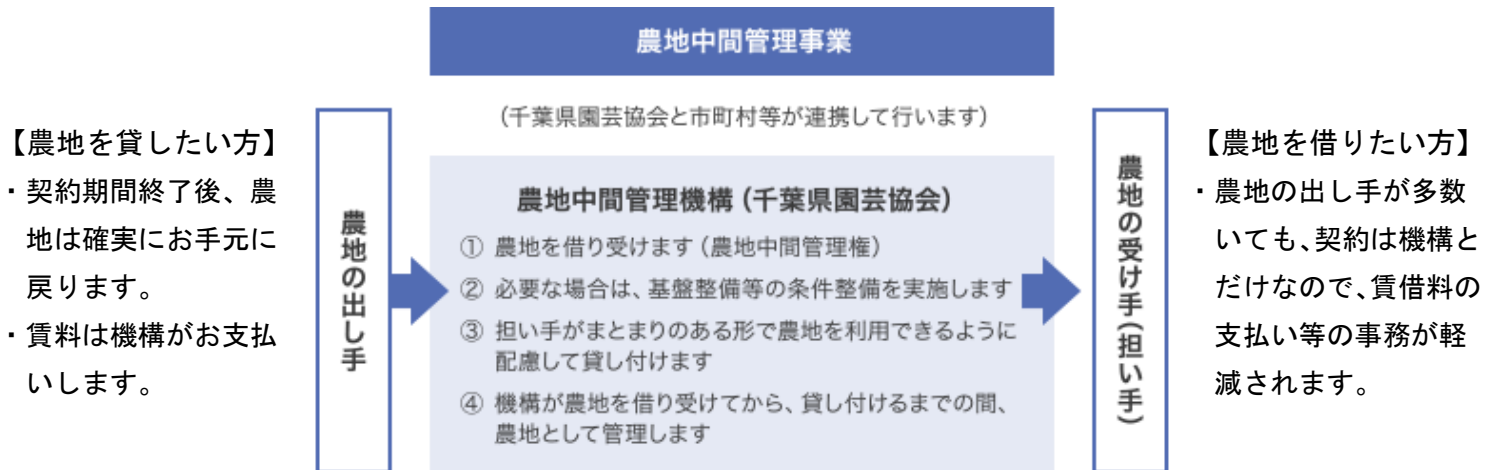
## ○農地中間管理機構について○

国では農業構造改革と生産コストの削減を推進するため、今年度から農地中間管理事業をスタートさせました。

農地中間管理機構（以下、機構）は農地所有者と農業経営者の間に立ち、所有者から農業振興地域内の農地を借り受け、受け手に貸借等を行い、農地の集団化、経営規模の拡大、新規参入を進めます。

まとまった農地を機構へ貸し付けた地域には、町から協力金が支払われます。また、個人でも要件を満たせば協力金が支払われます。

なお、現地確認の結果、再生困難な耕作放棄地等は借り受けないこととなっています。



## ○飼料用米の生産拡大○

平成26年産米は、作況指数が101（千葉県104）と豊作だったことに加えて消費量の減少などにより米価が大幅に下落しました。

このため、平成27年は飼料用米の生産拡大推進と支援策が強化されることになっています。昨年、白子町では25戸35.5haで飼料用米が生産されました。その状況は表1のとおりです。今年の生産計画等の参考としてください。

なお、今年の支援策は国・県・町予算の確定後公表されることとなっています。詳しくは、役場産業課へお問い合わせください。

表1 平成26年産飼料用米の生産出荷状況

白子町内		10アール当たり				
生産農家	生産面積	出荷量 ①	単価 ②	販売額 ③=①×②	助成金 (国県町) ④	収入金額 =③+④
25戸	35.5ha	539kg	13円/kg	7,007円	94,503円	101,510円

(上記以外に、主食用米作付面積10a当たり7,500円の助成)

## ○世界遺産と稲作○

米価が大きく下落した昨秋、有志でカンボジアの世界遺産と稲作事情を視察してきました。

国民の8割が農業従事者というカンボジアは、国民1人当たりのGDPが約10万円という厳しい経済情勢の中、壮大な世界遺産アンコールワット遺跡で大勢の幼い子どもたちがお土産を売る姿を目の当たりにして、改めて内乱や戦争の虚しさを痛感させられました。

稲作地帯のメコン川周辺は、治水・灌漑・排水対策が不十分なため、洪水の多い雨期を避け、乾期（11～12月収穫）に栽培する農家が多く、一方で水不足に悩むという矛盾を抱えています。アンコールワット周辺の水田では出穂前後の稲が多くみられ、収量250kg（10a）との説明に納得できる作柄でした。

ホテル近くのマーケットでは、ブラウンライス、スティッキーライス等、たくさんの種類の米が並べられ、価格は日本の飼料用米並みの1kg当たり20円～50円で販売されていました。

日本から4,500km離れた遠いカンボジアで、長粒種を味わいながら、米価の低迷に直面する日本の農業と稲作について夜遅くまで議論しました。



アンコールワット周辺の水田



マーケットで販売されている米

農地に関する相談は、農業委員会で受け付けています。

連絡先 白子町農業委員会

電話 0475(33)2115